

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-292104

(43)公開日 平成6年(1994)10月18日

(51)IntCl.<sup>5</sup>

H04N 5/64

識別記号

庁内整理番号

FI

技術表示箇所

511 B 7205-5C

審査請求 未請求 請求項の数1 OL (全3頁)

(21)出願番号 特願平5-77326

(22)出願日 平成5年(1993)4月5日

(71)出願人 00005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(72)発明者 千葉 滋

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

シャープ株式会社内

(72)発明者 塚田 康博

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

シャープ株式会社内

(72)発明者 岸本 行生

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

シャープ株式会社内

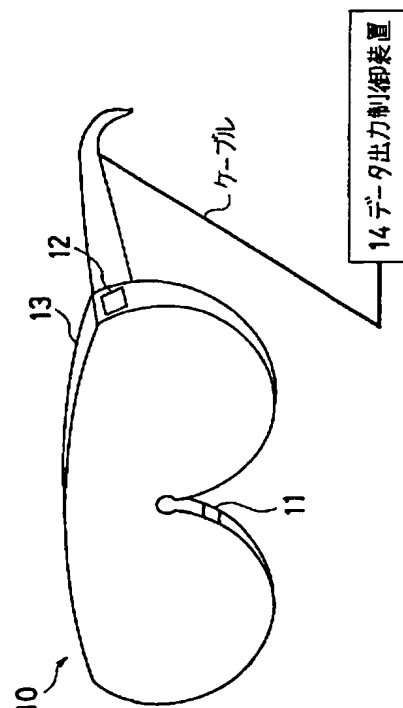
(74)代理人 弁理士 川口 義雄 (外1名)

(54)【発明の名称】 小型眼鏡型ディスプレイ装置

(57)【要約】

【目的】 小型眼鏡型ディスプレイ装置における表示を、ディスプレイの着脱状況によって行うように制御し、利用が容易である小型眼鏡型ディスプレイ装置の提供。

【構成】 小型眼鏡型ディスプレイ装置において、着脱状況を検知する認識部、認識部からの信号を受けとってディスプレイ装置の着脱状況を判定し、ディスプレイ装置の表示のON・OFFを制御する制御部を具備し、データ出力制御装置と連結している構成とした。



## 1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 着脱状況を検知する認識部、認識部からの信号を受けとってディスプレイ装置の着脱状況を判定し、ディスプレイ装置の表示のON・OFFを制御する制御部を具備し、データ出力制御装置と連結していることを特徴とする小型眼鏡型ディスプレイ装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、小型眼鏡型ディスプレイ装置に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】テレビ受像機自体の大型化、多機能化が進む一方で、携帯型のラジオ、カセットレコーダと同様に小型軽量で携帯性に富んだ液晶テレビが開発されて久しい。市場に出回っている携帯性の液晶テレビはポケット収納型がであり、この他にも頭部装着型ディスプレイ装置も知られている（特開平1-295577号、特開平1-133479号）。

【0003】従来の頭部装着型ディスプレイ装置では、表示のON/OFFは別途設けられた表示されるデータの出力制御装置のスイッチと連動しており、そのスイッチをONにするとディスプレイにデータが表示されるようになっている。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】従来の方法では、以下のような問題点がある。

【0005】1) データ出力制御装置のスイッチが入っていると、ディスプレイ装置を装着していない際にもディスプレイがONの状態が継続するため、ディスプレイへの焼き付け発生などの障害や、表示されている情報漏れに対するセキュリティの問題が生じる。また、当然に無駄な電気の消費も問題である。

【0006】2) 小型眼鏡型ディスプレイ装置を先の装着してしまった場合、ディスプレイ装置を一度外してデータ出力制御装置のスイッチを入れてから、再度ディスプレイ装置を装着することが必要となるため、操作上煩わしい。

【0007】そこで、本発明では、小型眼鏡型ディスプレイ装置における表示のON・OFFを、ディスプレイの着脱状況によって行うように制御し、利用が容易である小型眼鏡型ディスプレイ装置を提供することを目的とする。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】そこで、本発明では、上記目的を達成するために、小型眼鏡型ディスプレイ装置において、着脱状況を検知する認識部、認識部からの信号を受けとってディスプレイ装置の着脱状況を判定し、ディスプレイ装置の表示のON・OFFを制御する制御部を具備し、データ出力制御装置と連結している構成をとった。

## 2

【0009】着脱状況を検知する認識部としては、装着を開知し得る既知のセンサー、例えば、圧力、温度、光等のセンサーが使用できる。

## 【0010】

【作用】上記構成により、小型眼鏡型ディスプレイ装置において、ディスプレイ装置に具備されている、着脱状況を検知するセンサーからなる認識部が着脱状況を検出し、着脱状況を判定する制御部がこのディスプレイ装置の装着時にディスプレイの表示をONとし、外した時にディスプレイの表示をOFFにするように制御する。

## 【0011】

【実施例】本発明の実施例を図面を参考にして具体的に説明するが、発明の趣旨に添う限り、本発明が実施例に開示するところに限定されるべきものでない。

【0012】図1は、小型眼鏡型ディスプレイ装置の外観図である。

【0013】図2は、小型眼鏡型ディスプレイ装置の制御機能を示すブロック図である。

【0014】図3は、実施例における制御部のフローチャートを示す図である。

【0015】この小型眼鏡型ディスプレイ装置10において、鼻当て（nose pad）部分に圧力センサー11を取り付け、ディスプレイ装置10が鼻と接触しているか否かを検出する。圧力センサー11からの信号を制御部12が受けとってディスプレイ装置の着脱状況を判定する。ディスプレイ装置10を装着している場合には、ディスプレイ13においてデータ出力制御装置14からの表示をONにし、ディスプレイ装置10を外している場合には、ディスプレイ13においてデータ出力制御装置14からの表示をOFFにする。

【0016】圧力センサー11を取り付ける箇所は、このディスプレイ装置が装着されて接触する部分であれば初期の目的を達成することは明らかである。

## 【0017】

【効果】本発明は、上記の構成を採用することで、ディスプレイへの焼き付けを防止し、出力されている情報の情報漏れに対するセキュリティを守り、さらに消費電力を節約することができる。

【0018】また、データ出力制御装置等の操作上の煩わしさがなくなる。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】小型眼鏡型ディスプレイ装置の概観図である。

【図2】小型眼鏡型ディスプレイ装置の制御機能を示すブロック図である。

【図3】実施例における制御部のフローチャートを示す図である。

## 【符号の説明】

10 小型眼鏡型ディスプレイ装置

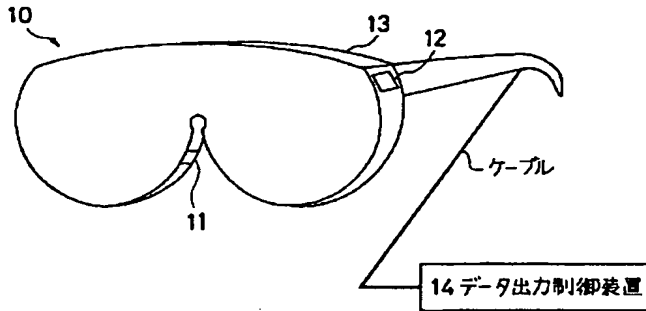
11 圧力センサー

50 12 制御部

13 ディスプレイ

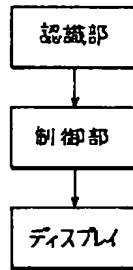
3

【図1】



14 データ出力制御装置

【図2】



【図3】

